

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切か	○			並行指導時には指導室を区切ってスペースを確保しています。活動内容によっては外の広場での活動も実施しています。
	②	職員の配置数は適切である	○			常勤職員3名以上配置しています。ボランティアや非常勤職員にもお手伝い頂く事もあります。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			教具棚にカーテンを引く、教具の数を厳選するなど、視覚情報に考慮して対応しています。また足型やタイマーでの時間の区切りなど、個々に応じた配慮も行っています。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			空気清浄機や指導毎の消毒など、コロナ予防も含めてより徹底して対応させて頂いています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○		スタッフ個々も自分の考えを持てる力を育めるよう、自分で課題提案が出来るように人材育成に努めています。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今年度よりインターネットを活用してのアンケート調査を実施。より効率的にアンケート掌握が出来るようになり、保護者様の意向も出やすくなりました。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やHP等で公開している	○			当事業所のHPに毎年度も評価を公表させて頂いています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			ボランティア等を受け入れています。また他のデイからの見学など、多様な視点を取り入れ、環境の改善や業務の見直しに活用する機会としている。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			スタッフ個々の興味関心から研修に繋げる事を行っている。スタッフ自身が学びたいという意欲を育めるように、研修先も紹介を行っている。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			日々の指導の中でアセスメントしながら、子どもの成長発達によって変化する課題を反映させて、作成しています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			発達段階、原始反射などから見たアセスメントシートを使用しています。活動時に動作からのアセスメントを行っています。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			子どもと毎回活動内容を相談して決めている為、固定化はしていない。子どもに合わせて行っている。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			個別支援計画書に記載された内容を軸に、活動の中で見えてきた課題をその都度アプローチしています。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている		○		活動内容は担当スタッフと子どもでその都度決めています。個々の課題はスタッフが抱きながら、子どもは楽しさをモチベーションに身体を動かせるように関わっています。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			プログラムが固定化しないように子どもの個々のその時に合わせて、活動内容を選択しています。不安から活動が固定化する場合もアセスメントし、子どもと交渉しています。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		○		個々で行っている事もあるが、必ずとは言えない。実施出来ている時もあればそうでない時もある。	

	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼で子どものや保護者様の今の状況や、実際の指導時の担当割りなどを確認しています。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		必ずではないが、共有すべき内容などを支援終了後に必要に応じて、個々や職員全員で共有する場合があります。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録係を役割分担で決め、何を行っていたかをタイムリーで記録し、支援の振り返りなどに活用しています。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6カ月に一回以上を目安に、保護者様にもモニタリングシートを作成し、希望などを抽出させて頂いています。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者だけでなく、スタッフにもその子どもに精通した者が参加出来るようになってきました。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		母子保健や子育て支援等の関係機関との連携は取れていません。園や他の事業所とは保護者様の要望や必要性に応じて、連携を取らせて頂いています。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		保護者様を経由して、情報把握や共有に務めています。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		主治医や医療機関等との連携体制は整えられていません。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者様の要望に応じて、支援内容等の情報共有などを行っています。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		関係機関連携加算Ⅱを通じて、支援内容や児童の状態の情報の引継ぎを、保護者様の要望に応じて行っているケースもあります。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		特化した支援を行っている事業所などに、その概要などを教えて頂くなどの助言や連携を行っています。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		意図して障がいのない子どもと活動する機会は設けられていません。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		自立支援協議会がどこで開催されているかわかっていません。さかい放課後連絡会には参加させて頂いています。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者送迎の特性上、その場で保護者様に直接、子どもの今を伝えて頂きながら、共通理解を計っています。
		㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	
	㉜	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用者負担に関しては別紙を作成し、報酬改定や人員配置変更の度に、ご説明させて頂いています。セルフプランの方が多いので御利用者様自身の理解を深めて頂く意図があります。

保護者への説明責任等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		保護者様のニーズや支援の狙いなど、個別支援計画の同意を得るのは当然ですが、そこから派生した課題なども、その都度、保護者様に説明させて頂いています。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的と期間は設けていませんが、保護者送迎の特性上、来所の際に保護者様にお声がけして、悩みの共有を努めさせて頂いています。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		障がい特性が似ているケースや、モデルケースを求められる保護者様など、個々の実態に応じて保護者様同士を了解の元で、マッチングする事は行っています。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		児発管を中心に、個別相談対応をさせて頂いています。またその際の体制などもスタッフに周知して、迅速かつ適切に対応しています。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	会報は発行出来ていません。連絡体制はメールとLINE公式アカウントを用いて、迅速な連絡体制を整えています。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		以前に人為的ミスがあった為、業務改善し二重チェックを設けるなど、徹底しています。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ルビを打った資料なども準備していますが、本人の要望でルビをなくした経緯もあります。個々に応じて、伝わりやすいツールや方法で対応しています。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		事業所主催の行事はありませんが、近隣の高齢者施設や演劇場など、連携を取らせて頂いています。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○	各種マニュアルは作成していますが、保護者周知が例年の課題です。見える化を計ります。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回実施しています。また1回は利用者様も含めて実施しています。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		てんかん発作のある子どもの対応として、事前に救急搬送先や指導前にスタッフの役割分担などを行っています。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	自事業所では、おやつや食事などの提供を行っていないが、食物アレルギーの会などからの情報提供などを受けています。
	④⑤	ヒアリハット事例集を作成して、事業所内で共有しているか	○		年度毎にその年度のヒアリハット集を作成し、スタッフで共有し、危機管理の確認を行っています。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		伝達研修を行ってきましたが、今後は事業所内での開催でより学びのある研修を検討しています。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	支援計画への記載まで徹底して行えていません。保護者様との子どもへの対応についてはその都度、ご相談させて頂く事がありますが、今の課題でもあります。